

N06a **惑星を持つ星のアルファ元素と鉄族元素の振る舞い (II) : Si, Ca, Ti, Ni, Cu の解析**

比田井 昌英、大宮 正士、高橋 佑介、小杉 泰生 (東海大学)

銀河系円盤星は、その運動学的性質から薄円盤星と厚円盤星に分類される。これまでの F, G, K 矮星の大規模サンプルに基づく $-1 < [\text{Fe}/\text{H}] < +0.5$ の領域での様々な元素組成の解析研究から、薄円盤星と厚円盤星での組成の振る舞いの違いが調べられ、薄円盤と厚円盤の形成に関する知見が得られている。

惑星を持つ星も薄円盤星と厚円盤星に分類できる。惑星を持つ星が、 $-1 < [\text{Fe}/\text{H}] < +0.5$ の領域における銀河系円盤の形成、化学進化の枠組みのなかで、どのような位置づけであるかということの知見を得る目的で、組成の振る舞いを薄円盤星と厚円盤星において調べている。

今回は、前回 (2006 年秋季年会) の Mg, S, Zn の組成解析で用いた、岡山天体物理観測所 HIDES による観測で得られた約 30 星について、前回に引き続いて、アルファ元素 (Si, Ca, Ti) と鉄族元素 (Ni, Cu) の組成解析を行なったのでこれらの振る舞いについて報告する。組成解析は、ATLAS9 による大気モデルに基づき、測定した等価幅から WIDTH9 による LTE 解析を行なって求めた。